

関連事業

関連事業の概況

NHKの関連団体は、それぞれの事業分野でNHKの業務を補完・支援し、NHKグループの一員として、NHKとともに豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としている。

NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図ると同時に、NHKのソフト資産・ノウハウの利活用や社会還元を進め、副次収入等での財政的寄与により視聴者の負担を抑制していくことを目標として運営されている。

12月1日、中間持株会社として(株)NHKメディアホールディングスを設立し、コンテンツ系子会社5社を傘下に置いた。なお「NHKサービスセンター」「NHKインターナショナル」「NHKエンジニアリングシステム」「NHK放送研修センター」の4つの一般財団法人は、2023年4月1日にNHKサービスセンターを存続法人とする「NHK財団」に合併し、さらに公益財団法人の「NHK交響楽団」を子法人化する。NHKグループの新しい体制を活用して、ガバナンス強化や業務の効率化を一層進めていく(関連団体一覧⇒p.584)。

[1] 関連団体の概要

NHKでは、放送法および放送法施行規則に定義されている「子会社(関連事業持株会社を含む)」「関連会社」「関連公益法人等」の3つをあわせて、「関連団体」と総称している。

2022年度末現在、NHKの

関連団体は、子会社12社(12月に設立された関連事業持株会社を含む)、関連会社4社、関連公益法人等9団体の計25団体、総従業員数は6,291人である。

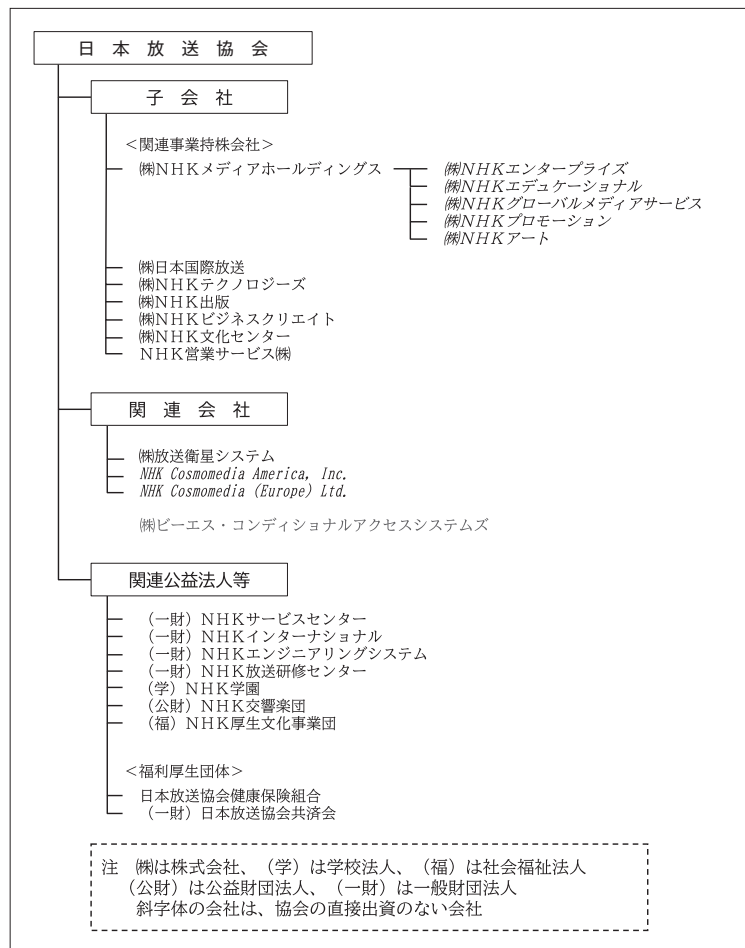
[2] 関連団体の決算概要

2022年度の関連団体決算は、健保・共済会を除く23団体の単純合計額で、売上高(事業収入)2,751億円(対前年度93億円増)、当期純利益(正味財産増減額)144億円(対前年度81億円増)であり、増収増益となった。

関連団体によるNHK副次収入への寄与額は、対前年度4億円増の49億円になった。

今期決算に伴う配当は、対前年度44億円増の75億円で、うちNHKの受取額は、対前年度10億円減の12億円となった。

関連団体 系統図



2023年3月31日現在

[3] 団体に対する出資など

2022年度は、NHKグループの子会社の業務の効率化を図るとともに、ガバナンス強化、経営管理の高度化を推進することを目的として、NHKメディアホールディングスに対し、27億円の出資を行った。

関連団体以外への出捐・出資については、一般放送事業者の教育・教養番組の一層の充実を図ること等を目的とする公益財団法人「放送番組センター」に5,659万円の出捐を行った。

番組制作委託と二次展開

1 関連団体への番組制作委託

NHKは、質の高い放送番組の安定的確保を図るとともに、外部の専門的能力を効果的に活用することで、番組の一層の多様化を推進する視点から、関連団体へ番組制作委託を行っている。番組の一層の多様化を図るため、関連団体を通じて、番組制作会社にも企画提案を求め、番組制作を委託した。

関連団体への委託では、NHKエンタープライズに、『NHKスペシャル』などの大型企画番組、ドラマ番組（『土曜ドラマ』など）、芸能番組（『ザ少年倶楽部』など）、自然番組（『ダーウィンが来た』など）、アニメ番組（『不滅のあなたへ Season 2』など）、情報番組（『うまいっ！』など）の制作、購入番組の日本語版制作などの委託を行った。

NHKエデュケーショナルには、『きょうの料理』『おかあさんといっしょ』『100分de名著』『沼にハマってきいてみた』など、生涯学習や教育・教養に関する番組の制作を委託した。

NHKグローバルメディアサービスには、大相撲、プロ野球をはじめとするスポーツ番組や、『Asia Insight』『スポヂカラ！』などのニュース・情報番組を委託した。

NHKサービスセンターには、『#NHK』『週末1分まとめ』『押し押し4K』など広報番組や公共メディア通信などの制作を委託した。

日本国際放送には、『J-MELO』『Journeys in Japan』などの国際放送番組を委託した。

2 放送番組等の二次展開

[1] 映像・音声商品等の発行

NHKエンタープライズからは、「NHK VIDEO」の名称で『連続テレビ小説』の「ちむどんどん」や『大河ドラマ』の「鎌倉殿の13人」、『TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇』、『岸辺露伴は動かないⅡ』、『やまと尼寺精進日記』、『いないいないばあっ！ピョンピョンアニマルパーティー』、『絶対行きたくなる！ニッポン不滅の名城』などの映像商品を発行した。

また、NHKサービスセンターからは、NHKCD「N響吹奏楽」「ドレスデン・フィル×ケーゲル1989年公演」、『N響×若杉弘 ブルックナー交響曲全集』アナログLP化などの音声商品を発行した。

[2] 放送番組および素材の提供

① 企業・団体への番組の提供

一般企業・団体、自治体の展示、イベント用などにNHKエンタープライズ等を通じて放送番組を提供した。

② BS・CS放送事業者への番組提供

NHKエンタープライズを通じて、CS放送事業者等に『BS日本のうた』、『特集ドラマ「眩（くらら）～北斎の娘～」』、『ポップジャム』、『レッツゴーヤング』、『世界ふれあい街歩き』、BS放送事業者に『連続テレビ小説』の「マッサン」「あさが来た」などを提供した。

③ CATVへの番組提供

NHKエンタープライズを通じて、『連続テレビ小説』の「花子とアン」や『大河ドラマ』の「おんな城主直虎』、『きょうの料理』、『ノーゾのひらめき工房』などを提供した。

④ 機内上映用の提供

航空機の旅客サービス用として、番組・ニュースなどのコンテンツを提供した。

NHKグローバルメディアサービスを通じて日本航空、全日本空輸などへ『NHKニュース』を、NHKエンタープライズを通じて日本航空、全日本空輸などへ『SONGS』、『有吉のお金発見 突撃！カネオくん』、『100分de名著』などを提供した。

⑤ 番組素材の提供

民間放送局および一般企業・団体への番組素材の提供をNHKエンタープライズを通じて、また、放送大学学園への番組素材の提供をNHKエデュケーショナルを通じて行った。

⑥キャラクターの使用許諾

NHKエンタープライズが、『おかあさんといっしょ』などの幼児番組やアニメ『魔入りました！入間くん』などのキャラクターの使用許諾を行った。

【3】デジタル事業

NHKグローバルメディアサービスが行うスマートフォン等のモバイル端末向けのサービスに対し、NHKの番組の楽曲などの提供を行った。

【4】番組・素材の海外提供

関連団体を通じて、番組とニュース素材を海外の放送機関などへ提供した。NHKエンタープライズからアニメやドラマ、自然番組などを提供、日本国際放送からは「NHKワールド・プレミアム」を配信した。

開発途上国の放送機関などには、NHKインターナショナルと連携し、「番組国際ライブラリー」の保存番組を公的資金によって提供した。

番組・ニュース素材については、NHKインターナショナルを通じて、海外の放送機関や一般団体へ提供した。また、デジタルクリップを制作し、オンラインによる提供も行った。

【5】放送番組関連の出版

『BS1スペシャル』の「女たちのシベリア抑留」や『NHKスペシャル』の「#みんなの更年期」など現在の社会を映し出した番組の書籍化を行った。また、「u&i絵本シリーズ」「子ども科学電話相談」など、子ども向けの書籍の出版も行った。

関連団体

(関連団体一覧⇒p.584)

子会社

1 NHKメディアホールディングス (MHD)

【1】概況

NHKメディアホールディングスは、2022年10月施行の改正放送法に基づき認められ、2022年12月1日にNHKグループ初の中間持株会社として設立された。傘下には、コンテンツ系子会社である、NHKエンタープライズ、NHKエデュケーショナル、NHKグローバルメディアサービス、NHKプロモーション、NHKアートの5社がある。

【2】経営改革

関連団体間での業務重複などの課題を踏まえ、今後のメディア環境激変も見据えつつ、傘下子会社の経営をグリップレスピード感をもって改革に取り組み役員数の削減などを実施した。

【3】事業連携

NHKやグループの経営資源が限られる中であっても、公共メディアとして、視聴者・国民により高品質なコンテンツ・サービスを届け続けるとともに、デジタル化へも的確に対応するため、コンテンツ系傘下子会社間でのシナジー効果を生み出すことが求められている。イベントの共同提案など、傘下各社の強みを束ねる形で事業連携を主導・育成した。

1 NHKエンタープライズ (NEP)

【1】概況

NHKエンタープライズは、その強みである「制作力・展開力・全国支社のネットワーク」を生かして、大型特集番組や高精細の映像コンテンツの制作、視聴者リレーションに資する番組連動のイベントの企画制作、ライセンスの許諾、商品の販

売などを手がけ、社会に大きく貢献した。2022年12月、新たに設立された関連事業持株会社のNHKメディアホールディングスの傘下子会社となり、一層の経営基盤強化を進めた。

[2] 映像コンテンツ

2022年度、映像コンテンツの分野では、新型コロナウイルスの感染対策に配慮しながらNHKのテレビやラジオ番組等、およそ1万4,187本を制作した。

テレビ放送開始70年を迎え、『テレビ70年記念ドラマ「大河ドラマが生まれた日」』『テレビ放送70年「おかあさんといっしょ」から見るこども番組』などを制作し、超体験NHKフェスでは『岸辺露伴は動かない』ファンミーティングを演出し、『ダーウィンが来た!』に関する展示を行った。

東日本大震災から12年。定時番組『明日をまもるナビ』、特集『明日をまもるナビ・スペシャル6局防災』を通して震災の教訓を伝えた。

総合テレビでは『チコちゃんに叱られる!』『有吉のお金発見 突撃!カネオくん』『ファミリーヒストリー』『演芸図鑑』などの定時番組の制作、『ニュースLIVE! ゆう5時』『英国エリザベス女王国葬』などの生放送にも対応した。ドラマ『岸辺露伴は動かない』第3期や『正直不動産』は話題作となった。

Eテレでは新たな定時番組として『バリューの真実』『ワルイコあつまれ』『ギョギョッとサカナ★スター』のほか、特集番組『ズームバック×オチアイ』『カラフルな魔女～角野栄子の物語が生まれる暮らし』『マイケル・サンデルの白熱教室』、アニメ『忍たま乱太郎』『おじゃる丸』『不滅のあなたへ2』『魔入りました!入間くん3』などを制作した。

BS1では『球辞苑～プロ野球が100倍楽しくなるキーワードたち』『COOL JAPAN～発掘!かっこいいニッポン～』などを制作し、デジタル調査報道(OSINT)を駆使した『デジタル・ウクライナ』はNHK-YouTubeで半年間に400万回の再生を記録した。

BSプレミアムでは『世界ふれあい街歩き』『体感!グレートネイチャー』『英雄たちの選択』『中井誠也のてつたび!』『新日本風土記』『新・BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』『The Covers』『にっぽん縦断こころ旅』『イッピン』『釣りびと万歳』『大相撲どすこい研』など多種多様な番組を制作。

BS4K・BS8Kでは、他波との一体化制作を更

に推進。自然番組『ダーウィンが来た!』や『ワイルドライフ』『さわやか自然百景』などの定時番組、『アラスカの光と風 星野道夫×大竹英洋時を超える旅』『世界遺産中継屋久島』『セティ・ゴルジュ 世界最深の谷に挑む』『ディープオーシャンII 紅海 深海の魔境に挑む』などの特集番組を制作。アーカイブス映像素材を4Kレストアした『伝説のコンサート』では「尾崎豊」「オフコース」なども手がけた。

『忠臣蔵狂詩曲No.5中村仲蔵出世階段』が文化庁芸術祭テレビ・ドラマ部門大賞、ATP賞優秀賞、『映像の世紀パタフライエフェクト』が菊池寛賞、『オリバーな犬、(Gosh!!)このヤロウ』が東京ドラマアウォードグランプリ、『恐竜超世界in Japan』が高柳賞最優秀賞、『“玉碎”の島を生きて～テニアン島 日本人移民の記録～』がATP賞テレビグランプリ、ギャラクシー賞優秀賞、放送文化基金優秀賞、早稲田ジャーナリズム大賞、BS8K『NHKスペシャル』「新・映像詩里山」がABU賞ドキュメンタリー部門最優秀賞と数々の賞を受賞した。

このほか放送番組以外にも企業や大学の依頼による映像コンテンツ制作に取り組んだ。

[3] イベント・映像事業

「小学生、高専、学生&ABUロボコン」「ミュージカル忍たま乱太郎」「国文祭おきなわ」「とうきょう総文」「東京フォーラム」「医療フォーラム」「エネルギーシンポジウム」など、アフターコロナにふさわしい、リアル、オンライン、ハイブリッドとさまざまな手法を凝らしてイベントを実施した。

「東京都最先端デジタル技術を活用した生物多様性普及啓発事業」「日光自然博物館展示コンテンツ制作」「8K文化財イベント(三内丸山遺跡,十日町市)」など、映像制作や映像を活用したイベントを通して、NHKグループブランドイメージの発信に寄与した。

NHK番組の提供・展開関連では、国内の配信事業者に対して『不滅のあなたへ』や『魔入りました!入間くん』などの新作アニメ、および『おかあさんといっしょ』などの幼児番組(DVD原盤)が順調に推移。新作アニメは海外の放送局・配信事業者にも人気となり、ドラマ『岸辺露伴は動かない』と共に売上に大きく貢献し、DVD等の映像ソフトの販売では『大河ドラマ』『鎌倉殿の13人』がヒット商品となったほか、マーケットニーズに応えた過去番組の掘り起こしも合わせ

て好調な売れ行きとなった。

メディアミックスでは『大河ドラマ』「鎌倉殿の13人」「どうする家康」の出版印税とロゴ展開が伸びたほか、アニメ『不滅のあなたへ』『魔入りました！入間くん』『忍たま乱太郎』が順調に推移。版權許諾では『おさるのジョージ』や『いないいないばあ！』などが売上に貢献した。

またアニメでは、製作委員会による『キングダム』第3・第4シリーズ、『アオアシ』の展開が好調だったほか、『おしりたんてい』『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』等の番組販売を2021年度に引き続き実施した。

新規事業の取り組みはイノベーション戦略室を中心に推進した。NHKアセットの活用事業として、「オンライン授業用番組ライブラリー」を継続したほか、ビデオレスタ技術を活用したマルチコンテンツ展開事業を実施した。先端技術を活用した主な取り組みとしては、3DCG映像による新美術体験展示コンテンツ開発や、総務省実証実験に参加し、ローカル5Gによるケーブルレスステージ演出手法の開発を行った。また、ユニバーサルデザインサービス事業の開発として、AI技術を使った手話動画の試験実装を開始した。

【4】地域

①近畿総支社・四国支社

『探検ファクトリー』『歴史探偵』『京コトはじめ』『きょうの料理』などの全国放送番組、『関西“愛”認定バラエティー ちゃうんちゃう？』『ええトコ』などの関西地方放送番組のほか、新春特集では『新春開運!! 富士山ぐるっと一周ウォーク』を制作。四国支社では全国放送番組『夏井いつきのよみ旅!』や、四国地方放送番組『前園真聖 四国ともたび』、『ノルノルミシル!』などの紀行番組を制作した。イベント事業では神戸市立博物館「よみがえる川崎美術館」、奈良国立博物館「春日大社 若宮国宝展」をNHKと共同で開催。大阪中之島美術館ホールでは「タローマンまつり」を2回実施した。新規に「デジタル防災クラス」「大阪マラソンPV」を企画・運営。自主事業では「富士山噴火啓発動画」などを受託。NHK大阪ホール管理運営業務も例年通り実施。四国では「二十四の瞳スペシャルトーク」「ギュッと！四国&よみ旅！ファン感謝祭」を実施、俳句ファンを全国から集め公開収録を行った。

②中部支社

地域情報番組『さらさらサラダ』『ウイークエンド中部』『東海どまんか!』『中部ネイチャー

シリーズ』『Uta-Tube』などの地域番組に加えて、BSP『最後の〇〇～日本のレッドデータ』を制作。イベントは、番組と連動した「中部ネイチャー10周年イベント」「朝ドラ『さくら』おかえりイベント」「ドラマ『岸辺露伴は動かない』展」は域内の富山局に加えて、仙台、札幌、熊本の各地域局で巡回実施した。自主事業は「展覧会岡本太郎」「全日本学生落語選手権」、『大河ドラマ』『どうする家康』関連で自治体イベントなどを実施。NHKのデータ放送制作や各種デジタルサービス事業も行った。

③中国支社

広島局金曜730の新番組『コネクト』では、小野文恵アナウンサーが各地を訪ねる「ブラフミエ」や広島交響楽団と若者のコラボ「広島交響楽団×夢プロジェクト」、**「みんなのカーブ県民大会議」**を10月のドラフト直前、3月の開幕直前に放送。また特集番組『アニメ聖地旅 倉敷』『山下健二郎 ときおき絶景旅 隠岐諸島の旅』地域情報番組『ひるまえ直送便』等で中国地方の魅力を伝えた。イベントでは鳥取で「砂の美術館コンサート」、岡山で「カムカムエブリバディ再会コンサート」等を実施した。

④九州支社

定時番組『はっけんTV』のほかに、九州沖縄の海に生きる漁業関係者を応援する『ウオカツ!』、九州沖縄の高校のユニークな部活を紹介する『キミだけ応援団』、『連続テレビ小説』『舞いあがれ!』の主人公さながらに五島列島で夢に向かって進む高校生たちを応援する『夢に向かって舞いあがれ!～長崎・五島列島 奈留島～』などの番組を制作。さらに事業と番組が連携してNHKの視聴者リレーション向上に取り組み、『KitaQ good&boo』では北九州市や地域の大学、公共団体等と連携し北九州局の公開収録イベントを企画から運営まで担った。『ウオカツ!』を番組だけでなくイベント展開したほか、朝ドラを題材に「連続テレビ小説『ちむどんどん』舞台地りレーススペシャルトークショー」「舞いあがれ! およお! 長崎・五島の魅力ば語ろうで～ドラマ出演者によるトークショー@長崎市～」を、『新・BS日本のうた』長崎・五島市や福岡・久留米市では出演歌手をゲストに視聴者リレーションイベントを実施した。各イベントに参加した観客から高い満足度を得ただけでなく、開催地域の経済団体等からは地域活性化への貢献に高評価を得た。九州沖縄出身の歌手やアーティストを集めた大型公開収録番組『六本松サテライトFES2023春』

等の運営を行ったほか、独自事業では高専ロボコンを通じてつながりのできた北九州高専が地域の製造業の人材育成のために開催するリカレント教育講座の企画・運営を行った。

⑤東北支社

定時番組『大好き♡東北 定禅寺しゃべり亭』『もりすた!』のほかに、金曜夜間では『東北ココから』で「あなたの町の映像アルバム」4本、「えふえむ旅」2本などを制作した。特集番組では、昭和29年から放送しているラジオの長寿番組『民謡をどうぞ』の3,000回を記念した『民謡をどうぞ3000回!うだっコフェス』や8K生中継『山形・庄内 歴史ロマンと食のまち』、『篠山輝信×東北旅2023』『コリコの生きものどアップ!超ミクロハンター』などを制作した。

イベント事業では、『東北ココから あなたの町の映像アルバム』と連動して、東北各地での上映イベント等を3回行ったほか、地域イベントのコンサート「あなたの伴走曲は何ですか?」を実施した。「NHK文化祭 ～感じる未来 酒田から世界へ～」や「ドラマ『岸辺露伴は動かない』展」の運営も担当した。

⑥北海道支社

定時番組では『さわやか自然百景』『Wild Hokkaido!』『NHKニュース おはよう北海道』『ひるなま!北海道』などを制作。特集番組では『白銀の大縦走～北海道分水嶺ルート670キロ』『179～あなたのマチにおじゃまします～』『640中継キャラバン』などを制作した。イベント事業では「鎌倉殿の13人 大泉洋スペシャルトーク」「ドラマ『岸辺露伴は動かない』展」「NHKさっぽろ みんなのSDGsパーク」のほか、ラジオ番組との連動で「九丁目怪談会」を実施した。

2 NHKエデュケーショナル (NED)

【1】概況

Eテレを中心に年間1万本近いNHK番組を制作し、同時に番組を展開した映像ソフトやイベント、展示会の展示映像、教育教材など多彩なコンテンツを広く提供している。

「NHK for School」の利用促進のため、2021年度に続き、教師向けWebコンテンツ「GIGAサポ 考える授業やるキット」を制作。「ものすごい図鑑・文化財編』『オープンクラス!NHK for Schoolがひらく新しい学び』『ヒミツの!?NHK

for School～じぶんかくどかわるSP』を制作した。また「NHK for School」を活用した『漂流兄妹』『木村多江の、いまさらですが・・・』『カズレーザーvs.NHK高校講座』などを制作した。

“ウィズ・コロナ”時代のイベントとして、「みんなのきょうの料理」関連のオンライン・イベントや『趣味の園芸』関連のオンライン・セミナーなどオンラインを活用したイベントを実施した。

【2】Eテレ

開発・特集番組として『とまどい社会人のビズワード講座』『歴史デリバリー』『地球は放置しても育たない』『ネイティブが使う順!英会話ランキングリッシュ』『アイラブミー』『ヴィランの言い分』『TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇』などを制作した。

定時番組では『言葉にできない、そんな夜。』『おむすびニッポン』『モンモンZ』『趣味どきっ!』『おかあさんといっしょ』『NHK高校講座』『大西泰斗の英会話☆定番レシピ』などを制作した。

【3】総合テレビ・衛星波

総合テレビでは、開発・特集番組として、『鉄道博物館 お宝フィルムが語る 知られざるニッポン』『選ばれるのは誰だ?密着!宇宙飛行士選抜試験』などを制作した。

定時番組として『ヒロイン誕生!ドラマチックなオンナたち』『明鏡止水～武のKAMIWAZA～』『あさいち』『サラメシ』などを制作した。

BSP・BS4Kでは、開発・特集番組として、『浮世絵ミステリー』『キュレーターバトル!!』『異世界ホテル旅』『自転車旅 ユーロヴェロ90000キロ』『医師が教える!極上健康旅』『世界ヘンテコ記念日』『かあちゃんの散歩道』などを制作した。

BS8Kでは、『究極ガイド 2時間でまわるピラミッド』などを制作した。

【4】テレビ国際放送・ラジオ第2

テレビ国際放送では定時新番組『Learn Japanese from the News』を制作した。定時番組では『Japanology Plus』『Science View』などを制作した。開発・特集番組では、ウクライナ関連の『I Sing for My Homeland』『Barakan Discovers』『Let's Trek Japan』を制作した。

ラジオ第2では、新番組『ニュースで学ぶ「現代英語」』を制作した。

[5] イベント等

「おかあさんといっしょスペシャルステージ」を3年ぶりに開催し、『びじゅチューン!』など番組関連イベントも実施した。語学学習をサポートする「NHKゴガク」アプリや『Learn Japanese from the News』のウェブサイト制作。過去のコンテンツを有効活用した動画サイト「キソサポ」の開発を行った。

3 NHKグローバルメディアサービス (G-Media)

[1] 概況

NHKの報道・スポーツ・国際部門を支援する子会社として、迅速で正確なニュース、質の高い番組の制作、多彩なスポーツ中継、字幕放送や2か国語放送、国際放送を通じた海外発信、デジタル関連業務を行うとともに、デジタルサイネージ向けなどのニュース提供事業を展開している。

2022年12月1日より、株式会社NHKメディアホールディングスの傘下に入った。

[2] ユニバーサルサービスセンター

総合テレビにおける生字幕の付与時間が深夜に30分拡大され、6時30分から24時30分までの1日18時間となり、この間の緊急ニュースに即応できる体制を整えた。10月からは予算委員会など全ての国会中継に字幕を付与することになり、センター全体で態勢を構築した。

自主事業では11月に東京ガーデンシアターで行われた「True Colors Festival THE CONCERT 2022」で、バイリンガルグループの協力を得て、同時通訳と、会場スクリーンとYouTube配信向けの日英双方向の生字幕サービスを提供した。

手話グループでは、『こども手話ウイークリー』が通年の受託となり、編責業務を担当している。

[3] 番組制作センター

報道番組グループでは『おはよう日本』の中継企画班を立ち上げたほか、新番組『サタデーウオッチ9』の「押しプレ!」の制作を担当した。

『祖国への祈り～在日ウクライナ人の戦争～』など、ウクライナ戦争関連のBS1スペシャルを数多く制作した。また、パラスポーツについては『アニ×パラ』で放送・デジタル・リアル（地域イ

ベント）の多方面に展開した。

国際番組グループでは、2月に起きたウクライナ侵攻に対応し『国際報道2022』『キャッチ!世界のトップニュース』『週刊ワールドニュース』などできめ細かく伝えた。また、国際放送でも『Asia Insight』『ウクライナ侵攻に揺れる中国市民』や『Where We Call Home』『日本から戦火の祖国を思う』などの特集番組を制作した。

[4] ニュース制作センター

国際・ビジネス関係のコンテンツを重視する新たなニュース番組として、『BSニュースWorld + Biz』がスタートした。夕方以降は英語通訳が常駐するなど制作態勢の充実を図り、地上波とは異なる視点での番組構成に取り組んでいる。『BSニュース4K+ふるさと』の編責はこれまでNHK職員が担当していたが、2022年度からGメディア社員が担っている。

アメリカの中間選挙では、投票から大勢判明まで『ワールドニュース』などを通じて丁寧に伝えた。8月には大雨特別警報や線状降水帯発生、台風上陸などが相次ぎ、総合テレビでの臨時の気象解説は92回に上った。

[5] 国際事業センター

バイリンガルグループでは『サタデーウオッチ9』の音声多重放送通訳、『BSニュースWorld + Biz』の映像翻訳が始まった。また、ロシアによるウクライナ侵攻が長期化し、ウクライナ語の通訳依頼が切れ目なく続いている。地域局からの翻訳依頼も多く、新しい通訳の登録を進めて要請に込んでいる。自主事業の外部通訳では、新型コロナウイルスの感染拡大に対応してオンライン主体の業務で受注を回復させたが、感染縮小で対面式の業務が戻りつつある。

国際映像グループでも、ウクライナ侵攻に関連した中継・伝送オペレーションを継続対応している。7月の安倍元首相銃撃事件では最新のニュース映像を迅速に提供し続け、この業務によりアジアビジョン*から7月の月間賞を受賞した。

※ABUにおいて衛星によるニュース交換を行うためのネットワークのこと。

[6] スポーツセンター

記録的な猛暑やコロナ対策の中での業務となったが、夏の高校野球では、仙台・福島・山口など、地域での大きな反響を得た。また、10月に新潟地区でのJリーグ中継を受託するなど、スポーツ

中継での地域放送局の支援を積極的に行った。

MLBは、昨年に続いて大谷翔平選手の活躍に注目が集まり、ベーブ・ルース以来の2桁勝利・2桁ホームランの記録を伝えた中継は高い視聴率となった。11月にFIFA ワールドカップカタール 2022が開催され、各種スポーツとの要員調整を行いながらデジタル班・ニュース班も含めたセンターの総力を挙げて取り組んだ。

展開事業グループでは、2018年より受注を続けて来た南関東競馬が入札で契約更新となるなど、自主事業への取り組みを強化した。

【7】映像センター

映像取材グループでは、12月放送の『NHKスペシャル』「金正恩の北朝鮮」で、番組取材としては3年ぶりにプロパーのカメラマンが韓国や米国の海外取材を行った。

映像制作グループでは、FIFA ワールドカップカタール 2022の期間中、デイリーニュース制作班と、ウイークリーハイライト班で社員が映像制作デスクとして業務を行った。

【8】デジタル推進室

NHKオンラインの「防災情報の一元化」の取り組みでは、3つの防災系サイト「明日をまもるナビ」「災害列島」「水害から命と暮らしを守る」のCMSを共通化し、互いに記事を表示できるように改修した。Gメディアが開発した地域局のHPに簡単に記事を掲載できる「エリアコネクト」が各地方局で導入され、運用が開始されている。

【9】事業推進室

デジタルサイネージ事業では、10月からニュース制作をNHK制作から自社制作に変更したことで、必要に応じて的確にニュースを更新できるようになった。他の関連団体と共同で事業を行っている、テキストコンテンツを人型アバターの手話に翻訳する「手話コンシェルジュ」は、2月から販売を始めた。

【10】地域支援センター

西日本はじめ九州、北海道の各支社では、管内で始まった土日祝日の645の県単化やエリア放送の充実に人員を増強して対応。東北支社では5月、障害者の避難行動を考える管中番組に初めての生字幕を付与するなど、NHKの地域放送の充実に向け支援を強化している。

4 NHKプロモーション (NPS)

【1】概況

放送関連イベントの企画・運営をはじめ、展覧会、コンサート、フォーラム・シンポジウム、各種式典、講演会などのイベント事業を実施した。

【2】展覧会

2022年度は、展覧会では特別展「ボンベイ」、沖縄復帰50年記念特別展「琉球」、没後50年 鏑木清方展」、国立西洋美術館リニューアルオープン記念「自然と人のダイアログ」、スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」、東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」、展覧会 岡本太郎、「NHKハート展」、「NHK for School 展」、イスラエル博物館所蔵「ピカソ～ひらめきの原点」、「キース・ヴァン・ドンゲン展 フォーヴィズムからレザネフォル」、「水木しげるの妖怪百鬼夜行展～お化けたちはこうして生まれた～」、「YUMING MUSEUM」などを実施した。

【3】番組関連イベント

番組関連イベントでは、「超体験NHKフェス」をはじめ、「NHKバレエの饗宴2022」「NHK音楽祭2022」「ヌマーソニック2022」「緊急開催！『鎌倉殿の13人』ファンミーティング」などに加え、「うたコン」「ザ少年倶楽部」などの公開番組を実施した。

このほか、「ワンワンまつり パラダイス編」「地域伝統芸能まつり」「こころとからだに効く講演と音楽の集い」「食と農 エールコンサート」「小野賢章×細谷佳正 朗読劇 THE CLASSIC～「平家物語」「犬王の巻」の世界～」などを行った。

5 NHKアート

【1】概況

NHKテレビ番組の美術制作（美術制作進行、大道具等美術用品の製作・運用、装置、装飾、衣装、メイク、かつらなど）やCG映像・VFX・バーチャル映像やグラフィックス等のデザイン制作を行っている。事業資格として一級建築士事務所、特定建設業許可、屋外広告業登録を有し、文化施

設・イベント等の企画、制作、設計・施工、運営まで全般的な業務を行うほか、NHKホールをはじめ11のホール・会館の舞台・照明・音響機器等の操作・運営管理など、番組美術制作で培ったノウハウを生かした多様な業務を行っている。

【2】2022年度の取り組み

2022年度は『大河ドラマ』「鎌倉殿の13人」や『連続テレビ小説』「ちむどんどん」、『第73回NHK紅白歌合戦』、『ドラマ10』「大奥」、『FIFAワールドカップカタール2022』、新番組『あしたが変わるトリセツショー』、第70回菊池寛賞を受賞した『映像の世紀バタフライエフェクト』などのNHK番組の美術業務を行ったほか、「鎌倉殿の13人 大河ドラマ館」（伊豆の国市、鎌倉市）、NHK放送技術研究所「技研公開2022」、番組連動イベント「ヌマーソニック2022」、「高専ロボコン」、「超体験NHKフェス」といったNHK関連イベントのデザイン・設計・施工を行った。イベント部門では他にも「インド太平洋経済枠組み（IPEF）の立ち上げに関する首脳級会合」、東京国立博物館創立150年記念事業「150年後の国宝展—ワタシの宝物、ミライの宝物」の展示設計・施工を担当した。

デザイン部門では、LEDウォールとインカメラVFXのコンテンツを担当した『大河ドラマ』「どうする家康」のVFX、『信長のスマホ』での劇中画面などのほか、地方局へのバーチャルセット納品、番組ロゴやタイトル制作などの地方局支援、「150年後の国宝展バーチャルミュージアム」制作、ヨシタケシンスケ原作のアニメ『それしかないわけ ないでしょう』の開発・制作も行った。

ホール運営業務では、改修を終えたNHKホールで2年ぶりに開催された『紅白歌合戦』その他の番組、催事のほか、管理を担当する各ホールでの動画収録、配信にも対応している。

報道関係では参院選開票速報やウクライナ情勢の緊急対応のほか、「色のユニバーサルデザイン（以下、UD）」の考え方にもとづく配色に対応する共通カラーパレットの導入や気象情報画面の改善に引き続き取り組んでいる。

またNHKのデザイン部門と協働し環境負荷の少ない素材の開発研究を進め『あさイチ』、『1.5℃の約束 いますぐ動こう、気温上昇を止めるために』など複数の番組のセットへのサステイナブル素材導入によりNHKの環境経営と視聴者リレーション活動に貢献しているほか、全社で「UDコーディネーター」有資格者の育成を行うなど

SDGsに関係する取り組みを行っている。

2 日本国際放送（JIB）

【1】概況

NHKグループの改革が進む中、2022年度は、NHKのテレビ国際放送の基幹衛星等を運用する国際回線業務をNHKグローバルメディアサービスから引き継ぎ、NHKの国際発信業務がJIBに統合された。オールジャパン体制による“国際発信・国際展開のゲートウェイ”となるために、NHKを含む各株主との協力関係の深化と番組制作力の強化を図り、日本の魅力を世界へ発信する取り組みを進めた。

2022年4月の本社移転を機に、業務効率化、DX推進、非常時の事業継続体制の強化にも努め、NHKグループの国際業務で中核的な役割を果たすべく各種事業に当たった。

【2】番組制作

NHKワールド JAPANの番組制作では、8つの定時番組を制作した。特集番組では開発番組として谷中や神田川を舞台に『Dive in Tokyo』6本を制作し、2023年度の定時番組化につなげた。他に『わが祖国はくじけない 在日ウクライナ女性の闘い』『Doki! Doki! NHKワールド JAPAN ウクライナ関連特番（5本）』、『ハイヒールを履いた僧侶（日本語版）』などを制作し、NHKエンタープライズから移管された『NINJA TRUTH』（2本）、『Reading Japan』（パイロット版）も含め、例年を上回る数の特集番組を制作した。

インターネットによる番組の多言語展開では、約400本の多言語版および約500本の番組について英語字幕を制作・公開した。またインターネットで公開されているコンテンツへのアクセスを促進するためのデジタル広告を継続的に実施した。

その他のデジタル展開では、在外邦人向け日本語ニュース番組等の配信拡充、ライブストリーミングのAI字幕にウクライナ語を追加、緊急時に総合テレビのニュースに英語字幕をつけて外国人向けにインターネット配信する機能を追加した。

【3】IP回線による配信

NHKワールド JAPANのOTT^{*}配信は2022年度、アメリカのSlingTVをはじめ、ドイツのZattoo、ウクライナのMegogoなど世界の約20

事業者に拡大した。また、多言語AI字幕を事業者へ効率的に提供できる配信基盤の構築に取り組んだ。

※OTTとはOver-the-Topの略で、既存のケーブルテレビや衛星放送を介さず、インターネット経由で番組やコンテンツを配信するサービスのこと。

【4】編成・送出 ニュース編集部門

NHKの国際放送の編成・送出、英語ニュース編集業務を安定的に遂行した。インターネットで配信されるNHKワールド・プレミアムのニュースと番組は、2022年度は10番組に増え、在外邦人向けの情報発信の充実・強化にも取り組んだ。

ウクライナ侵攻のニュースでは、衝撃的な映像や悲惨なシーンについて、JIBの英語ニュースにおけるノウハウも駆使して、人権に配慮した適切な映像表現を意識した編集を行った。

【5】独自事業

沖縄返還50年、北朝鮮による拉致被害者の帰国から20年というタイミングに合わせて、2022年度はJIB独自の30分番組をそれぞれ制作。沖縄の番組はNHKワールド JAPANのホームページにも掲載され、YouTubeでも展開した。

また、2022年度からBSフジとの共同制作で毎月放送する『Trailblazers・次なる日本の革新者たち』をスタートさせたほか、2021年度に続いてアイヌ民族文化財団から、北海道の各地域におけるアイヌの人々の歴史と多様性を描くドキュメンタリー番組の5本シリーズといった大型事業も受注した。

さらに、総務省の「映像コンテンツを活用した地域情報発信」実証事業に、埼玉県三芳町と共同で提案した企画が採択され、サステイナブルな「落ち葉堆肥農法」を紹介する動画を制作。この動画はDiscovery（英国・フランス）で放送、および配信された。

3 NHKテクノロジーズ (NT)

【1】概況

NHKの番組制作から送出、送信・受信、情報システム、設備整備・運用・保守にわたる一貫体制で、全国ネットワーク力と専門技術力を生かしてNHK業務を支えている。

【2】ファシリティ技術

全国のNHK送受信設備の保守管理業務および設備整備業務を受託し、基幹局を除く、全国の中継局、共同受信施設の保守管理とともに、中継局の設備更新を実施した。地震や台風、大雪などの災害発生時には、直ちに電波確保状況を確認するとともに、設備の点検・復旧、電源確保に対応した。

定期異動期および年末年始、メンテナンスウィーク期間や参議院選挙期間中は「放送・電波確保」「事故防止」の取り組みを強化した。

また、NHK新放送会館スタジオ内装工事、放送所の局舎補修・改修工事・工事設計監理業務などを実施した。

一般業務では、民放地デジ送信機更新工事やFM-STL空中線更新工事、民放新社屋建設に伴う基本設計業務、総務省V-Low帯域における防災利用の技術的条件に関する調査や地上デジタル放送の高度化（4K・8K）に向けた技術試験調査業務、国土交通省地方整備局のみなどカメラシステム更新工事、CATV事業者の自主放送設備更新工事、自治体ギャップファイラー更新工事、大都市部の大型電波障害対策、全国劇場・ホールの音響コンサルなどを実施した。

海外業務ではコンボ公共放送局に対する技術支援に参画した。

【3】デジタル開発技術

情報システム事業分野では、主にNHKのシステム開発・運用業務やDX関連業務を実施した。システム開発・運用業務として、ICIS（放送系情報システム）のセキュリティ対応、営業系システムの受信料値下げ対応、インボイス対応、受信料の窓口の対応、NHKプラスのID登録・マイページ等の対応、VOIS（コールセンターシステム）の機器更新、事務系システムの刷新支援、参議院選挙報道におけるシステム対応、松江局・佐賀局・富山局の新会館移転に伴うシステム整備などを実施した。DX関連業務では、放送番組制作現場のDXを目指した5Gを活用した実証実験や、4K・8Kでのライブ配信システムの開発（7月の『生中継 復活！祇園祭』等で使用）、データ分析やAI関連のシステム支援業務を行った。このほか、NHKグループ各社のセキュリティインシデント対応やリスク対策支援・分析作業、業務システム開発やネットワーク運用支援、クラウド基盤の導入支援などを実施した。

番組設備整備関連では、NHK業務として施設

受託業務、8Kノンリニア編集機・4Kノンリニア編集機の整備および保守、録再機・カムコーダ機器の修理・定期補修などを、NHK以外の業務では、FM局やケーブルテレビ局の設備更新、運用監視、B-SAT（放送衛星システム）設備保守などを実施した。

【4】メディア技術

NHKの放送技術に関する業務全般を担い、番組制作技術および送出・報道技術の事業分野で幅広く受託した。番組制作部門では『土曜ドラマ』『空白を満たしなさい』『ドラマ10』『プリズム』『NHKスペシャル』『未解決事件 File.09 松本清張と帝銀事件』などのドラマや、『ザ少年倶楽部』『The Covers』『新・BS日本のうた』『おかあさんといっしょ』『ワルイコあつまれ』など、多彩なジャンルの番組を制作した。

スポーツ中継では「大相撲」「Bリーグ」「日本女子オープンゴルフ選手権」「カーリング日本選手権」を、ロケ業務では『BS1スペシャル』『正義の行方』『NHKスペシャル』『プラタモリ』『ダーウィンが来た!』など、多くの番組を制作。CG/VFX業務では、インカメラVFX手法を使って『大河ドラマ』『どうする家康』『NHKスペシャル』『恐竜超世界』など、話題作の制作に貢献した。

送出・報道部門では地上放送5波（G、E、R1、R2、FM）、衛星放送4波（BS4K、BS8K、BS1、BSP）、国際放送（TV、R）、NHKプラスの運行送出業務を受託した。スタジオ業務では「パラ競泳世界選手権2022」「FIFA ワールドカップカタール 2022」ほか、スポーツ番組を送出、報道技術では、回線センター、ニュースセンターの技術業務を受託した。「米中間選挙特番」のスタジオ技術業務や、「参議院議員選挙」の中継基地構築を担当するなど、安心・安全に関わる情報を安定・継続して発信した。

【5】CSR活動

当社が東日本大震災の発生以降、継続して各所を定点観測的に3D映像で記録している震災コンテンツについて、発災から12年となる2023年は「震災対策技術展」東北（AERビル）、「第27回震災対策技術展」（パシフィコ横浜）の2つの展示会から上映展示要請があり、3Dモニターによる上映対応を行った。

4 NHK出版

【1】概況

NHK出版は、NHKの放送番組テキストおよびNHKの放送に関連した書籍・雑誌、放送関連以外の書籍・雑誌等の出版・販売（電子版も含む）のほか、音楽著作権の管理等を主業務としている。

【2】テキスト

2022年度放送テキストは『きょうの料理』『すてきにハンドメイド』などの家庭向けテキスト、『ラジオ英会話』や『旅するためのフランス語』などの語学系テキスト、『趣味どきっ!』や『100分de名著』などの趣味・教養系テキスト、計44タイトルを発行した。また、すべてのテキストについてテキスト電子版を発行した。新規テキストとしては、『中国語!ナビ』『ハングルッ!ナビ』の2誌を創刊した。

【3】ドラマ関連書

ドラマ関連書では、『NHK大河ドラマ・ガイド 鎌倉殿の13人』の後編・完結編、『NHK大河ドラマ・ガイド どうする家康』の前編を刊行した。また『連続テレビ小説』については、「ちむどんどん」のドラマ・ガイドPart2、「舞いあがれ!」のドラマ・ガイドPart1・2を刊行した。その他、『NHK 子ども科学電話相談』シリーズや『徹底討論! 問われる宗教と“カルト”』、『道をひらく言葉 昭和・平成を生き抜いた22人』などの番組関連書を刊行した。

【4】実用書

実用書では、『いくつも編みたいソックス&ミトン』『5日ですべて! はじめてのスマホ スタートブック』『別冊NHKきょうの健康 はじめよう ランジ筋トレ』などを刊行した。

また、引き続き「NHK語学テキスト 音声ダウンロードチケット」を刊行した。

5 NHKビジネスクリエイト (NBC)

【1】概況

NHKビジネスクリエイトは、NHKグループの放送、インフラ、事務の各部門の事業運営に不可

欠な業務の支援を担う「総合サポート企業」として事業活動を展開した。

[2] ファシリティマネジメント事業本部

局舎管理事業部では、参議院選挙の政見経歴放送収録時の特別警戒や急患発生時の人命救助対応など放送センターの安全・安心の確保に努めた。また、各玄関での入館者の体温チェックの継続など新型コロナウイルスの感染拡大防止に取り組んだ。

放送車両事業部は、参議院選挙、山形県の大雨災害への災害対策車の派遣などニュース取材に迅速に対応したほか、番組中継のために中継車等の放送車両を安全・的確に運行した。

技術事業部は、放送センターの電気・空調設備の安定運用を根幹に、参議院選挙やFIFA ワールドカップのLAN・共聴等のインフラ工事、オフィス抜本改革やニュースセンターの大規模レイアウト変更工事、放送センター建替関連の調査・設計・監理でロケ機材室解体・整備等を完成させた。

千代田支社は、国会周辺や中央官庁への取材前線のため、昼夜を問わず人や車両の出入りがあることや、毎週日曜の生放送討論番組や年間を通したインタビュー取材などもあるため、警備要員・管理要員が連携してセキュリティ確保に努めた。

技研支社では、竣工から20年以上が経過した技研ビルの設備の老朽化が進行していることから、ビル南面外壁劣化および自動火災報知設備の大規模な補修・更新工事を提案するなどビル設備の運用管理を行うとともに、3年ぶりにリアル開催となった技研公開で支援業務に当たった。

[3] オフィスマネジメント事業本部

総合事務センターは、NHK職員・スタッフの人事・総務管理業務やNPORT（社内イントラ）・SMaRT（事務系システム）およびG-SMaRTの運用・管理業務、IDカード発行・管理業務、ビジネスデバイス管理業務、マイナンバー収集・保管業務など、公共メディアの運営基盤を支える業務を実施した。また、NHKや関連団体の新ERP導入に伴う検証・開発やNHKのセルフマネジメントサポート業務の支援を行った。

調達・管財事業部は、放送センターの建替に伴う放送設備整備、地域の放送会館建設に伴う設備整備などの調達契約業務を行った。また一般競争入札を推進し公正・透明な手続きの徹底とコスト低減に努めた。管財業務は新規の固定資産登録を行ったほか、固定資産・備品の適正な管理に努めた。

編成事業部は、参議院選挙やFIFA ワールド

カップなど重要イベントの編成プログラム業務やBS波運行業務に対応した。10月からは対象局がさらに拡大された41局の地域局プログラム業務を支援した。NHKプラスでは総合テレビ・Eテレの全番組配信化に的確に対応した。

地域支社では、調達・総務・車両運行管理・モニターなどの各支援業務を行った。なお、松山支社では2022年12月をもってモニター業務を終了し、四国管内のモニター業務は以後考査室が担当することとなった。

[4] グループサポート事業本部

テナント事業部は、築50年になる第一共同ビルについて、2022年12月から解体工事を開始した。解体後、地下1階地上6階建てのビルを新築する計画となっている。また、第三共同ビルの基幹設備である受変電設備の更新工事は計画通り2023年3月に完了した。

人材派遣・字幕制作事業部は、NHKグループの業務支援のため「NHKグループ人材バンク」の充実に努め、登録者は2022年度489人に達した。また、NHKのニュース、生放送番組および事前収録番組の字幕データ制作に関するオペレーター業務を実施した。

印刷・記念品事業部は、NHKの組織改正に伴う印刷の他、品質と生産性の向上に取り組んだ。文書の電子化では地域放送局の移転・再編などのペーパーレス化に貢献し、記念品では安価で良質な記念品製作に取り組み協会を支援した。

6 NHK文化センター

[1] 概況

NHK文化センターは、教養・趣味・暮らし・芸術・健康など多彩な講座を全国25教室で約4万3,000件展開している。2022年度は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、各教室で感染防止対策を継続し、安心・安全な講座運営に取り組んだ。

[2] 教室講座・オンライン講座

教室講座の開催と合わせて、いつでもどこでも学んでいただける新しい講座の形としてスタートさせたオンライン講座は、海外在住講師のライブ配信など多彩な講座を展開し、全国のお客様に受講していただくことができた。

またお客様のニーズをくみ取るためアンケート

を活用し、満足度を高める講座運営やコンテンツの企画開発・提供に取り組んだ。さらに、講座の集客窓口を拡大すべく、外部プラットフォーム（チケットぴあ、NHKグループモール）と協業し、お客様が参加しやすい環境も整備した。

NHKグループならではの番組関連講座も多数開講し、NHK杯国際フィギュアスケート競技大会を楽しむ講座や、気象キャスターによる天気予報を楽しむ講座、趣味の園芸関連講座などを実施した。また、放送開始70年記念講座として、ジャーナリズムは何をどう伝えるべきか、元NHK記者の柳田邦男と池上彰の特別対談講座を開催し、初めて講座コンテンツが放送番組として総合テレビとBS1で放送された。

[3] 企業・自治体提携セミナー

『大河ドラマ』「鎌倉殿の13人」と連動したトークセミナーを、NHK地域放送局との共催で全国10か所の自治体の委託を受け開催した。トークショーでは、番組PRに加え各地域の歴史と大河ドラマをつなげる要素を織り交ぜ、毎回オリジナルな内容で実施した。

また、地域活性化やSDGs、Withコロナを題材に、福井県や山口県阿武町、明治大学、早稲田大学と提携セミナーを開催し、“学びや文化交流の場”を広く提供した。

7 NHK営業サービス (NBS)

[1] 概況

2013年秋に10年後を見据えた「NBS経営ビジョン」を取りまとめており、2022年度は、それを具体化した3か年の中期経営計画「NBS経営プラン2021-2023」の2年目にあたる年度であった。2021年度にNHK会長の「特命事項」に基づき策定した「アクションプラン」の具体化に、社内プロジェクトや業務実施部門を中心に取り組み、全社的にNHKの構造改革に連動した活動を行った。

[2] 受託事業

受託業務については、4月に池袋マーケティングオフィスを開設し、首都圏、関西、中部で「対面アプローチ」業務を開始した。お客様に公共メディアNHKの価値や受信料の意義・契約の手続きを丁寧にご案内するとともに、NHKの事業運

営や放送番組などに対するお客様の声を収集し、NHKへのフィードバックを行った。また、放送受信契約書等の情報処理、全国4か所のコールセンターにおけるお客様対応、受信契約等に関わる自治体・事業所対応、集合住宅対策や未収者・未契約者対策、視聴者活動の支援資材の企画・編集・制作等の各種業務を実施した。加えて、2018年度より開始した放送局事務支援業務は甲府、水戸、神戸、静岡、福井、岡山、熊本、大分、秋田、山形、高松の11局で実施した。2019年12月より受託のNHKプラス関連業務では、NHKプラスの普及拡大に貢献した。

[3] 自主事業

自主事業については、2014年度に一般社団法人700MHz利用推進協会から受注した「700MHz帯を利用する携帯基地局によるテレビ受信障害対策コールセンター運営業務」の継続実施や、新4K8K衛星放送などのコールセンター業務を行った。

[4] 企業統治・リスク管理

新たにリスク管理室を設置し、企業統治やリスク管理についても適切に対応した。2000年に取得したプライバシーマークの維持・継続に向け、個人情報保護の適切な取り扱いに向けた体制・運用等を不断に見直し、定期的な研修と個人情報保護の運用確認を実施した。

関連会社

1 放送衛星システム (B-SAT)

株式会社放送衛星システム（略称B-SAT）は、BS放送における基幹放送局提供事業者として放送衛星を調達・所有し、その管制、運用のほかアップリンク業務、全局EPG（電子番組表）のデータ集配信業務を行い、BS放送の基本的なインフラ提供の役割を担っている。

放送衛星は、新4K8K衛星放送、2K放送とともにBSAT-4衛星（4a/4b）を現用として運用し、BSAT-3衛星（3a/3b/3c）は、万一の場合に備え軌道上予備としている。

2022年度は、10月にBSスカパー！が放送を終了し、これにより、認定基幹放送事業者が制作する2K放送29番組、音声放送1番組、エンジニ

アリングストリーム1系統と4K放送6番組を右旋のチャンネルにより、4K放送3番組と8K放送1番組を左旋のチャンネルにより、全国の視聴者に安定的に届けた。

2K放送と4K8K放送で別々に存在する契約約款・料金表を統一する新約款・料金表の検討を行い、放送事業者への説明などを経て、2023年3月に制定した。これらは2023年12月から適用する。新料金表では衛星放送事業を巡る経営環境の厳しい状況を踏まえ、2021年10月に行った2K衛星中継器料の値下げ（約10%）に続き、2K放送では更に15%、4K放送については約24%の値下げを決定した。

2026年度に予定するアップリンクセンター移転完了に向け、送信用局舎用地（多摩市）、オペレーションセンター用地（府中市）を取得しており、2022年度は、それぞれの場所に建設する局舎の設計や整備する放送設備の調達を進めた。

2 NHK Cosmopedia America, Inc.

NHK Cosmopedia America（NHKコスモメディア アメリカ）は、NHKグループのアメリカでの番組制作と国際映像展開の拠点である。NHKで放送されるメジャーリーグ野球やゴルフ等のスポーツ中継、ドキュメンタリー、BS1の定時生番組の制作や、番組取材の支援を請け負っている。また、国際映像展開ではアメリカ・カナダ在住の日本人・日系人向けに、民放を含めた有料日本語チャンネル「テレビジャパン」のほか、過去の番組を有料でネット配信するSVOD事業・dライブラリ・ジャパンを運営している。テレビジャパンの契約世帯数とdライブラリ・ジャパンの契約者数は、2022年度末時点で、合計およそ4万5,000件。

3 NHK Cosmopedia (Europe) Limited

NHK Cosmopedia (Europe)（NHKコスモメディア ヨーロッパ）はロンドン本社とパリ事務所を拠点に欧州における番組制作と国際放送展開を行っている。番組制作部門は、NHKの制作力・技術力を生かした高品質な番組作りやリサーチ、通訳、機材の手配などのコーディネート業務を行っている。また「JSTV」のチャンネル名で、NHKや民放の番組など日本語の有料放送を実施

している。衛星やCATV、さらにインターネットを通じて欧州のほか、ロシア、中東、北アフリカなど60を超える国で24時間放送し、各国の多数のホテルにも配信している。ニュースを中心に1日平均5時間、在外邦人の情報確保のためのNHK国際放送としてノンスクランブルで放送している。

4 ビーエス・コンディショナル アクセスシステムズ(B-CAS)

略称は「B-CAS（ビーキャス）」。NHKBSデジタル放送の受信確認メッセージや有料放送の視聴、それにデジタル放送番組の著作権保護などに利用されているICカード（B-CASカード）の発行・管理を行っている。

2022年度は、B-CASカードの改ざんへの対応を進めるとともにカードの流通・在庫の適正化を進めた。2022年度のカード発行枚数は373万枚、累計発行枚数は2億8,968万枚となった。

また、社会的インフラを担う企業として、引き続きコスト削減に努め、利用者負担の軽減を図った。

関連公益法人等

1 NHKサービスセンター (NSC)

[1] 概況

2023年4月に控えた財団統合（NHKサービスセンター、NHKインターナショナル、NHKエンジニアリングシステム、NHK放送研修センター、NHK交響楽団）を見据え、新たに「社会貢献事業推進室」を設置して財団間の事業連携を深め、互いの強みを生かした社会貢献事業を積極的に開発した。

広報・広聴業務の高度化を進めることで自治体等との相互協力広報展開を拡大させたほか、NHK公開施設のシナジー効果を創出し、入場者数を大幅に伸ばした。

[2] NHK広報業務・イベント・展示業務

『大河ドラマ』『連続テレビ小説』や『NHKスペシャル』の広報では、特にSNSの特性を生かした多角的かつ効果的な発信により、幅広い年齢

層の視聴者との接触率向上を図った。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の対応を行いながら、NHKプラスの普及を目的としたイベントや、NHKの防災への取り組みを紹介する展示を企画制作し、NHKプラスクロスSHIBUYA等で実施した。小学生を対象としたメディアに対するリテラシーを学ぶ「つながる！NHKメディア・リテラシー教室」をNHK放送博物館等と全国の小学校をオンラインでつなぎ、計17回実施した。また『大河ドラマ』『連続テレビ小説』の番組パネルや小道具を全国各地で展示し、番組広報に努めた。

[3] 各種発行物、コンテンツ制作業務

月刊誌『ラジオ深夜便』を12号発行したほか、『ラジオ深夜便 誕生日の花カレンダー』を発行した。

コンテンツ制作業務では、NHK語学番組の音声テキストCDの発行や音声配信を番組と連動した内容で毎月行った。またレコード会社等から依頼を受け、NHKアーカイブスからN響、みんなのうた、NHK全国学校音楽コンクールなどの放送音源を提供した。

[4] NHK施設運営

NHKホールは、2021年3月から休館して天井の耐震性を高める工事や外壁補修、設備更新などの大規模改修を行ってきたが、6月に終了し7月から再オープンした。

NHKプラスクロスSHIBUYA（渋谷スクランブルスクエア14階）は、新型コロナ対策での入場制限を2022年7月に緩和した。開館からの来場者数は2022年10月に50万人、2023年2月には60万人に到達した。

NHK放送博物館は、感染状況の改善に伴い、団体受け入れの再開や展示を通常の状態に戻し、2022年度の入館者数は7万人を超えた。

[5] NHKの広報・広聴活動等

視聴者センターには、放送番組やニュース等への視聴者からの問い合わせ・意見等が約92万件寄せられた。また、参議院議員選挙や台風災害に対応して電話受付時間の夜間延長を行うなど、視聴者サービスを強化した。

公益目的支出計画として、NHKウイークリー『ステラ』の休刊に伴い、日本点字図書館が発行する点字週刊誌「NHKウイークリーガイド」からNHK番組を利用した視覚障がい者向けの録音

図書（CD）へ対象を変更し、助成を行った。「放送教育・ICT教育のあり方に関する調査・研究」では、発表の場としてメディア・リテラシー事業をイベント展開し実施事業を拡充。そのほか月刊誌『ラジオ深夜便』の全国の老人福祉施設への寄贈、「新・介護百人一首」の実施やNHK等主催の「NHK杯全国中学校放送コンテスト」等を共催した。

2 NHKインターナショナル (INT)

[1] 概況

公的資金によって、発展途上国の放送機関の支援や番組提供を行っている。また、放送番組の多言語版を制作するとともに、公共メディアNHKの知見を生かして海外放送機関への協力業務を行い、相互理解の推進を図っている。

[2] 海外放送機関への支援

JICA（国際協力機構）の委託を受けたウクライナ公共放送（UA:PBC）支援プロジェクトは、緊急報道や機材管理をテーマに現地で研修を実施し、2022年2月に「フェーズ1」を終えたのに続き、2023年3月、「フェーズ2」を開始した。戦火によって首都キーウの本局機能が失われた状態でUA:PBCが公共放送としての使命を果たせるようさまざまな支援を進めている。

「コンボ国営放送局へのプロジェクト」は、新たに開局予定の2つの支局に対して放送機材供与や番組制作能力強化の指導を実施した。

また、インドネシア公共放送TVRI（テレビ）とRRI（ラジオ）に対してオンライン研修を実施した。

南スーダン放送局（SSBC）へのプロジェクトは、2022年に「フェーズ2」を開始し、報道、番組制作、機材整備などをテーマに現地で研修を実施している。

さらに、JICAからの委託を受け、8か国から来日した15人の放送局職員を対象に「民主国家におけるメディアの役割」をテーマに東京で研修を実施した。

その他、ASEAN4か国の放送局を対象に、NHK OBらの専門家が海洋プラスチックごみの処理をテーマに番組制作を支援し、加盟国での放送が実現した。

【3】海外への番組提供、番組制作

海外放送機関への番組の提供については、国際交流基金を通じて、9か国9機関に207本の番組を提供した。

日本への理解を促進するために海外に提供する番組である国際版は、2022年度は7本（英語版5本、スペイン語版2本）を制作した。

【4】取材協力業務、国際映像配信の支援

2022年11月に開催されたNHK杯国際フィギュアスケート競技大会において、ホスト局NHKによる国際映像配信の支援業務に当たった。新型コロナウイルスの影響でライツホルダー局（放送権保有）クルーの来日はなく、取材支援はなかった。海外ライツホルダーと伝送設備や回線手配を事前に調整・手配し、大会期間中は現地から光ファイバーの国際回線を使い4種目合計9プログラムの映像・音声をも70余りの国と地域に配信した。

【5】外国語版番組の制作

国際コンクール参加番組の国際版は19本、海外交流用国際版番組は6本を制作した。テレビ国際放送のNHKワールド JAPAN用にも、定時番組『サラメシ』『ドキュメント72時間』などに加え、ドラマシリーズなどの特番、計106本の英語版を制作。また、ホームページ提供用として中国語版（繁体字）50本、ポルトガル語版36本、ウクライナ語版58本、ベンガル語版48本、フランス語版20本、インドネシア語版15本、タイ語版11本、ベトナム語版11本、スペイン語版10本、ヒンディー語版1本を制作した。

【6】NHKワールド JAPANへの反響の活用

「NHKワールド JAPAN」テレビへの投書約6,800件やラジオ国際放送へ寄せられた投書約8,000件について集計・整理し、NHKに報告し、番組制作・番組編成に役立てた。

海外在住の約2,100人の番組モニターから得た報告を月1回まとめ、各番組担当者にフィードバックし、放送の質のさらなる向上に資した。

【7】日本賞関連

教育コンテンツの国際イベントである第49回日本賞の事務局支援業務をNHKより受託し、実施した。今回は3年ぶりのリアル開催となり、コンテンツ、企画の両部門について合わせて353件の応募があった。

3 NHKエンジニアリングシステム(NES)

【1】概況

「広く社会に、放送技術の可能性を届けたい」というコーポレートメッセージを掲げ、研究開発成果をNHK局内、および外部の幅広い分野に役立てていく取り組みを推進した。

2023年4月1日にNHKグループのサービスセンター（NSC）、インターナショナル（INT）、エンジニアリングシステム（NES）、放送研修センター（CTI）の4つの一般財団法人が合併し、新たな一般財団法人「NHK財団」が発足する。この合併に向けた準備を進めた。

【2】研究開発事業化プロジェクト(NESラボ)

NHKで利用されている字起こしツールに関し、引き続き機能向上や使いやすさの改善を図るとともに、関連団体への提供に向けて検討を進めた。「ラジオ気象AIアナウンスシステム」については、音声合成エンジンの開発や、地域ごとに放送局に合わせた辞書更新作業を実施した。気象情報の手話CGについては、放送技術研究所の検証サイトを、フォトリアリスティックなアニメーション版に更新した。AI技術を活用した白黒映像をカラー化する技術については、実用化を図り、NHKの番組素材として活用された。

【3】NHK技術の周知・あっせんの取り組み

技研公開やCEATEC2022にてNHKの特許・ノウハウに関わる技術展示を実施したほか、全国の自治体で開催される知財マッチングイベントに参加し、NHK保有特許の周知・あっせんを行った。

【4】公益目的支出計画の実施状況

一般社団法人放送サービス高度化推進協会（A-PAB）から総務省技術試験事務「放送用周波数を有効活用する技術方策に関する調査検討」のうち、「次世代の放送通信連携サービスの実現に資する調査等」を受託し、3月に報告書を取りまとめた。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）から2022年度から3か年計画の「遠隔手術支援に向けた簡易8K高精細内視鏡システムの開発」を受託し、動物実験など2022年度の

計画を予定通り遂行した。

【5】事業連携の取り組み

NSCと連携して、流通経済大学「海の日アートフェス」や用賀商店街振興組合主催「サマーステージ2022」などにおいて、8K技術やAR技術を活用したイベントを実施した。また、NSC、CTIと連携してイベントや展示会などへの応用展開に向け、独自の合成音声を開発した。

4 NHK放送研修センター (CTI)

【1】概況

NHKの職員研修を事業の基本に、民間放送局、ケーブルテレビ局、海外放送局向けの研修を行い、放送界全体の人材育成に当たった。また、ことばコミュニケーション技術などの一般への普及や、「人にやさしい放送・サービス」を目指すNHKのユニバーサル放送（字幕等）の充実にも協力した。

2022年度は、新型コロナの感染拡大が続く中、オンライン方式での研修・セミナーを実施する一方、グループ討議や実習を伴う集合型の研修も実施できるようになった。

【2】NHK職員研修

NHK職員研修は、NHKが進める人事制度改革に伴い、“公共メディアプロ人材”の育成を目指し、「キャリア」「マネジメント」「デジタル」等の区分で研修を進めたほか、新人育成プラン「ジョブトライアル」、地域局改革に伴ってコーポレートから放送にシフトする人材の育成研修にも対応した。また、基幹職の各職群ライセンス取得のための「選抜プログラム」の運営業務を実施した。実施した研修は、全体で120件。受講者数は計6,700人程度であった。汎用性の高い研修手法としてニーズが増すeラーニングについては、コンプライアンス意識醸成から専門スキル習得といったものや研修と連携したものまで幅広い分野で新たに102コース設け、受講者数は延べ15万6,000人を超えた。

【3】関連団体向け研修、民放局向け研修等

NHK関連団体向け研修は、新採用者からリーダー層、管理職層まで階層別を実施した。民間放送局向け研修は、NHK・民放連共催の「放送人基礎研修」を2021年度に続きオンラインで実施

したほか、「テレビ技術研修会」は3年連続オンラインでの開催となった。ケーブルテレビ局向けには、ケーブルテレビ連盟と連携した「NHKケーブル総合セミナー」を8支部対象に、また「ケーブルテレビの緊急災害放送」や新規開発した「ケーブルテレビの未来～コンテンツのデジタル展開」をオンラインおよび集合形式で実施した。その他、放送技術系の基礎セミナー等を集合・オンライン・動画配信を活用して開催するなど放送界全体の人材育成に取り組み、放送文化の向上と発展に努めた。

海外放送局に対しては、国際協力機構（JICA）の委託を受け、地上デジタルテレビ放送政策・技術の研修やインドネシアの放送局向けにデジタル放送の番組制作についての研修をオンラインで実施した。

【4】ことば・コミュニケーション事業

ことばセミナー・講座等の事業では、「話しことばスクール」「NHK話しことば通信添削講座」「出張話しことば講師」等を通じ、分かりやすく話して伝える「ことばコミュニケーション」のノウハウの一般への普及に取り組んだ。また、コロナ禍が続く中、対面研修を復活させながら、全国どこからでも講義を受けられるオンラインセミナーを充実させた。

教育現場でのことばコミュニケーション事業では、大学・高等学校・中学校・専門学校で話しことばや伝え方の講座やセミナーを実施したほか、企業・団体からの要請に応え41件の研修を実施し、学生や社会人のプレゼンテーション能力などのノウハウを社会に還元するとともに、NHKや番組についての理解促進にも寄与した。

放送番組のアナウンス等の業務では、『チコちゃんに叱られる!』『日曜美術館』『プレミアムカフェ』『マイあさ!』『ラジオ深夜便』などに出演したほか、ラジオ第1放送の『ごごカフェ』の新コーナー「目指せコミュ達!」では、いきいきとした会話がはずむヒントを提供するなど、アナウンサーとして蓄積した技術を生かし、多様で質の高い放送支援に貢献した。

防災に関するイベントでは、NHKサービスセンターなどと連携して、南海トラフ巨大地震発生時に大津波が想定されている高知県黒潮町で、NHKの「命を守るための呼びかけ」についての講演や、災害時の避難を考えるワークショップなどを番組と連動して行い、防災意識を高めるための社会貢献に取り組んだ。

5 NHK学園

[1] 概況

テレビ・ラジオ放送を利用した教育システムを日本で初めて取り入れた全国一学区の広域通信制高等学校。教育を通じてNHKの放送の利用促進に寄与するとともに、放送コンテンツの充実・改善に協力している。また、生涯学習教育や社会福祉士国家試験受験資格を取得するための通信教育を行い、世代を超えた学びの場を提供している。

[2] 高等学校

東京本校をはじめ、全国33の協力校等でスクーリングを実施した。週3日間登校する「登校コース」(東京本校)、ネットコンテンツを整備した「スタンダードコース」、海外在住者を対象とした「スタンダードコース海外」、不登校生を主な対象とした「ライフデザインコース」をそれぞれ展開した。国内と海外で3,300人を超える生徒が学び、これまでの卒業生総数はおよそ8万人となる。

2022年度は新教育課程への移行初年度となり観点別評価を導入、生徒の記録を詳細に残すこととなった。また、これを機にネット学習システムを改修し、NHK高校講座をネット学習システム内で視聴する「ムービープレーヤー」を導入した。これにより、NHK高校講座の視聴をこれまで以上に重視し、レポート学習との関連を強化した学習コンテンツを提供することとなった。

[3] 福祉教育

社会福祉士養成課程は、未経験者等を対象とする全カリキュラム履修の一般養成科1年6か月コース、福祉系大学卒業者や精神保健福祉士養成施設修了者等を対象とする一般養成科1年コース、福祉系大学卒業の実務経験者や公務員等を対象とする短期養成科9か月コースの2課程3コース。2022年度の学生総数はおよそ650人で、国家試験合格率は全国平均44.2%に対し一般養成科73.0%、短期養成科は68.4%だった。

[4] 生涯学習

通信講座では、短歌・川柳・書道・写真・絵手紙・古文書など60講座・コースと2019年度からスタートしたeラーニング講座、また2020年度からスタートしたオンライン教室を含め、およそ2万人が受講した。

オープンスクールでは2021年度に続き新型コロナウイルスの影響が続いたものの、全面休業等の措置はなく、年間で3万1,000人余りが受講。2021年度に比べ2,500人ほど受講者は回復した。

NHKとNHK学園で主催する「NHK 全国短歌俳句大会」は、大規模改修工事による休館や新型コロナウイルスの影響を経て、3年ぶりにNHKホールで開催した。短歌に約2万2,000首、俳句には約4万2,000句の応募があった。

6 NHK交響楽団

[1] 2022年度の概況

NHK交響楽団は、オーケストラ演奏によって音楽芸術の向上発展を追求し、社会文化の発展に寄与することを目的とした公益財団法人である。

2022年度は、9月の新シーズンから首席指揮者にファビオ・ルイーヂを迎えるとともに、1年半ぶりにメイン会場を東京芸術劇場から改修工事を終えたNHKホールに移した。これに伴い、新型コロナウイルスや会場の収容人数の低下等の影響で落ち込んだ定期会員数の回復に向けて、集中的にプロモーションを展開し、新たなN響をアピールした。

定期公演は、2021シーズンの終盤となる2022年4～6月、指揮者にクリストフ・エッシュェンバッハやマレク・ヤノフスキら世界的に著名な指揮者が出演するなど、シーズンを締めくくるにふさわしい豪華なステージを提供した。

9月からの2022シーズンは、A、Cの2プログラムをNHKホールに戻し、Bプログラムは引き続きサントリーホールで開催した。また、新シーズンの初回となる9月のAプログラムは、新首席指揮者ファビオ・ルイーヂの就任記念として、ヴェルディ「レクイエム」の大曲を披露したほか、続くB、Cの2プログラムもタクトを振るなど、首席指揮者としてのデビューを飾った。

10月の定期公演は、95歳のスウェーデン人で、桂冠名誉指揮者(顕著な功績をたたえ、楽団が贈る称号)のヘルベルト・ブロムシュテットが全プログラムを指揮し、マーラー「交響曲第9番」、シューベルト「交響曲第1番、第6番」のほか、ニルセン「交響曲第3番『広がり』」、グリーク「ピアノ協奏曲」など、北欧の作品を取り上げた。

11月の定期公演は、井上道義によるショスタコーヴィチ「交響曲第10番」をはじめ、アメリカ人指揮者レナード・スラットキンによるコープ

ランド「アパラチアの春」や「ロデオ」、ヴォーン・ウィリアムズ「交響曲第5番」など、それぞれが得意とする作曲家の作品を演奏した。

12月の定期公演は、再び首席指揮者ファビオ・ルイーダが出演し、ブルックナー「交響曲第2番」、モーツァルト「交響曲第36番『リンツ』」、メンデルスゾーン「交響曲第3番『スコットランド』」、ドヴォルザーク「交響曲第9番『新世界から』」などの名曲を演奏した。

1月の定期公演は、ロシアの指揮者トゥガン・ソビエフを迎え、故国の作曲家チャイコフスキーやラフマニノフをはじめ、印象派ドビュッシーやラヴェル、ドイツ作曲家ベートーヴェンやブラームスに至るまで、幅広いレパートリーを披露した。

2月の定期公演は、現在最も注目されている若手指揮者の1人、ヤクブ・フルシャによるバーンスタイン「ウエスト・サイド・ストーリー」から「シンフォニック・ダンス」やブラームス「交響曲第4番」を演奏したほか、N響正指揮者尾高忠明が父、尾高尚忠作曲の「チェロ協奏曲」を披露した。

定期公演以外では、7月に夏休み恒例の「N響ほっとコンサート」や、新シーズンの定期公演の聴きどころを抜き出して紹介する「ウェルカム・コンサート」を開催し、若者やファミリー層が本格的な演奏を気軽に親しめる機会を提供した。

12月恒例の第9公演は、2024年に引退を表明している井上道義指揮により、全5回開催した。

[2] NHK共催「地方公演、ミニコンサート」

NHKとの共催の地方公演は、本土復帰50年を記念した沖縄公演をはじめ、宮崎、大分、熊本、西宮、和歌山、堺、大阪の8都市で開催した。

学校の体育館などを会場に、NHKと共催でミニコンサートを開催する「NHK子ども音楽クラブ」は、全国11か所で開催した。

2023年放送予定のEテレ・アニメ『青のオーケストラ』とコラボしたミニコンサートを10月に渋谷ストリーム前稲荷橋広場で開催したほか、富山局の放送会館オープニング式典や神戸局主催の展覧会、鳥取局主催のイベントなど、地域局の依頼による室内楽コンサートを実施した。

[3] その他社会貢献等の取り組み

ファンサービスの一環として、日本のオーケストラで初めてお客様によるカーテンコール中の撮影を解禁した。

山梨県甲府市と東京都品川区の病院で、入院患

者向けのミニコンサートを開催し、コロナ禍で休止していた病院での社会貢献活動を再開した。

青少年向けの取り組みとして、ユースチケット（25歳以下の割引きチケット）を団体購入した小・中・高校生を対象に、本番前のステージ裏の見学や曲目の聴きどころを解説する活動を始めた。

復興支援の一環として、ゲームソフトメーカーと協力し、福島県浪江町において子ども向けキャラクターショーに室内楽を派遣した。

賛助会員向けの取り組みとして、リハーサルの模様をイヤホンガイド付きで解説し、N響事業への理解を深めてもらった。

未就学児を対象に「音を楽しむ」ことにスポットを当てたミニコンサート「N響といっしょ！音を楽しむ!!」を2回開催した。

7 NHK厚生文化事業団

多様化する福祉へのニーズにきめ細かく応えるため放送と連携しながら障害者福祉、高齢者福祉などの事業を行っている。また、福祉団体を支援するためのチャリティーイベントを実施している。

[1] 障害者福祉事業

- パラリンピック選手が小学生と障害者スポーツを通して交流する出前授業「パラリンピアンがやってきた!」を、東京と神奈川で計4回実施したほか、広島と高松でも各1回実施した。また、パラスポーツへの理解と支援のために、東京・渋谷区主催の車いすラグビー、パラ卓球、ボッチャ等の大会に取組賞の盾を贈呈した。
- 発達障害をはじめ、NHKのキャンペーン・プロジェクト等と連動したテーマや、当事者研究から探る共生社会などのテーマについてフォーラムを企画し、オンラインを中心に9回開催した。
- 親子の個別相談に応じる「こどもの発達相談会」を大阪で5回実施し、70件の相談があった。

[2] 高齢者福祉事業

- 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの事例を全国から募集して表彰する「認知症とともに生きるまち大賞」を実施し、受賞団体の活動をテレビ番組やインターネットで紹介し、取り組みの広がりを後押しした。
- 関心の高い認知症やがんに関するフォーラムを9回実施し、一部はテレビ番組でも伝えた。

【3】災害被災地支援事業

- ・地域福祉を支援する第34回「わかば基金」に設けた「災害復興支援部門」で西日本豪雨や東日本大震災で被災した福祉団体に支援金を贈呈した。また、東日本大震災被災地の福島・宮城・岩手各県の福祉施設が作った製品の販売会を東京・渋谷のNHK放送センターで実施した。

【4】事業団が長年作品を募集し 広く社会に伝える事業

- ・障害者の体験や福祉の実践を記録する第57回「NHK障害福祉賞」を実施し、その入選作品集を発行するとともに、テレビやラジオの放送で紹介した。

【5】福祉情報提供事業

- ・NHKの福祉番組や事業団制作の福祉DVD教材を貸し出す「福祉ビデオライブラリー」は、認知症やうつ病に関するソフトの利用が多かった。

【6】チャリティーイベント・福祉団体支援

- ・計画していたチャリティーイベントをほぼ予定どおり開催することができた。3年ぶりに開催した「NHK福祉大相撲」では、6台の福祉車両を各地の福祉施設へ贈呈することとした。
- ・地域福祉を支援する第34回「わかば基金」では、全国17の福祉グループに活動を広げるための支援金を贈呈するとともに、13グループに不用パソコンを活用した「リサイクルパソコン」を贈った。

〈福利厚生団体〉

8 日本放送協会健康保険組合

健康保険法に基づき、被保険者と被扶養者に対して、保険給付を行うとともに各種検診や予防接種の経費補助、メンタルヘルスへの対応などの保健事業を行っている。

なかでも、生活習慣病（メタボリックシンドローム）対策に関しては、事業主との協働により特定健康診査・特定保健指導の対象者を30歳からの若年層まで拡大し、早期の啓発と改善のサポートによる医療費抑制に取り組んでいる。

9 日本放送協会共済会

NHK役職員とその家族などの生活向上と、退職者とその遺家族の救済、援護等を行うために、食堂の運営、生涯生活設計相談、各種給付・貸付、各種保険の団体扱いおよび住宅相談等の福利増進施策を行った。